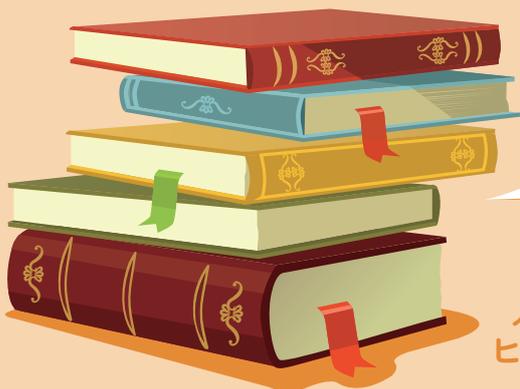


# BOOK REVIEW

人生のヒント  
VOL.5



このコーナーでは、  
毎回異なるブックナビゲーターに、  
人生やライフプランを考える上での  
ヒントとなる本をご紹介します。

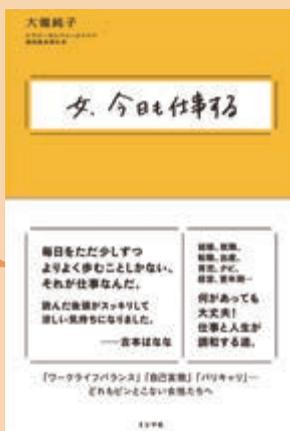


## ブックナビゲーター 山陽堂書店

東京・青山で明治24年創業。平成23年「ギャラリーのある本屋」に改装し、様々な展覧会・イベントを開催している。画家・谷内六郎さんの壁画が目印。

## REVIEW. 2 女、今日も 仕事する

大瀧 純子 著



[ミシマ社刊、2015年6月、  
1,620円]

当店は20代から50代位までの働く女性客が多い。そんな女性たちに読まれ続けている本。すぐに仕事に役立つノウハウが書かれているビジネス本ではない。日常のなかで「？」と感じたことを身の丈で少しずつ変えていったら職場の風通しがよくなっていく様子など、著者の“実感”を通して語られている。

面白いのは、元上司のことが遠慮なく(?)語られていることだ。それを赦す元上司もすごい。「人」って変わることができるのだと、ちょっと安心もする。「スタッフに声をかけられたら、どんな時でもすぐに振り向いて、話を聞く」そんな「ひとり」のしなやかな行動が心地よいものであったら、それは徐々に浸透し仕事の質まで変えていくのだ。

## REVIEW. 1 二番目の悪者

林 木林 著



[小さい書房刊、2014年11月、  
1,512円]

悪者ってだれのことだろう?と思いつつ読み進めると、絵本に登場する動物たちの表情に人間を、いや自分を重ね合わせ、考えさせられるのだ。「誰かにとって都合の良い嘘」を確かめることもせず真に受け、結果「嘘の世界」が「本当のこと」として知れ渡っていく。

現実でも同じようなことが起こっているのか、挿画を担当された庄野ナホコさんの原画展を当店で開催した時の感想ノートには、本の内容と同じようなことが起こり、会社を辞めていった人がいたことなどが書かれていた。ハッピーエンドの内容ではないものの、庄野ナホコさんの絵が魅力的で「心に刺さる物語、その痛みを優しさに変える絵だったからこそ、大切な一冊になりました」という言葉も残されていた。

現実でも同じようなことが起こっているのか、挿画を担当された庄野ナホコさんの原画展を当店で開催した時の感想ノートには、本の内容と同じようなことが起こり、会社を辞めていった人がいたことなどが書かれていた。ハッピーエンドの内容ではないものの、庄野ナホコさんの絵が魅力的で「心に刺さる物語、その痛みを優しさに変える絵だったからこそ、大切な一冊になりました」という言葉も残されていた。

## REVIEW. 3 困難な結婚

内田 樹 著



[アルテスパブリッシング、2016年7月、1,620円]

10年位前、仕事をひと月休んで本を読み続けていた女性がいた。彼女は私に「内田樹」という著者の本が一番肩の力を抜いてくれたと教えてくれた。『困難な結婚』、表題を見て、ハッとした方もおられるかもしれないが、それこそ肩の力を抜いて読んでほしい。

著者は「結婚を通じて幸福になろうとしているのが、間違い。そう思っているからみんな結婚できないんですよ」一人で暮すより、二人で暮す方が生き延びられる確率が高いから人は結婚するという。もし私が20代でこの本を読んでいたら、「ちがう!好きな人と幸せになるため」と反発していただろう。しかし、結婚して30数年、著者の言葉に妙に納得する自分がいるのだった。